

新茶

岡本かの子

青空文庫

それほど茶好きでなくとも、新茶には心ひかれる。

あの年寄りじみた、きつい苦みがないし、晴々しい匂ひがするし、茶といふよりも、若葉の雫を啜るといふ感じである。

色がいゝ。白磁の茶碗の半を満してゆらめく青湖の水。

さなりき、誘ふニンフも

誘はるゝ男妖精も共に髪ぞ青かりし

揺曳とした湯気の間から、茶碗の岸にさういふ美麗が見えるやうな気がする。

その茶碗を掌に享けて一口、二口、唇に触れては庭を眺める。実を付けた若楓の枝の下に池が在つて、底に透く陽光の水の宙に籠鮒が、昨年躰つた一寸ばかりの子鮒を四つほど従へて鰭を休めてゐる。このとき、身に合つた袴の上に、やゝ幅狭の博多帯が硬からず緩からず胸に締つてゐて呉れれば、他に何を望まう。しみ／＼日本の土に生れて日本の女であることが自分で味はれる。

西洋人の中で好んで日本の緑茶を飲むのはアメリカ人だが、必ず砂糖を入れて飲む。お

話にならない。まして新茶の風味などは思ひもよらない。

およそ嗜好飲料は香料の悦びの外に、一種の客観性の心境を作らせる作用がある。世相が、まま、熱騰でなければ消沈に傾き易いときに、それに釣り込まれないやう、客観性を平衡に保つことは私たちに必要なことである。さればといつて、不経済、不健康ほどに嗜好飲料を摂るのも行き過ぎである。今や、天地爽麗の季に乗じて、新茶一碗の服涼は、忙中僅に許さるべき自然の贈りものではあるまいか。

煎茶道の中興の祖、上田秋成が書いてゐる「もう何も出来ぬ故、煎茶を飲んで死をきはめてゐるばかりだ」と。而も、それが何もかも、し尽した年齢七十五のときの秋成の言だから、茶には何処か余悠のあることが判る。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆24 茶」作品社

1984（昭和59）年10月25日第1刷発行

1999（平成11）年7月10日第22刷発行

底本の親本：「岡本かの子全集 第十二巻」冬樹社

1976（昭和51）年9月第1刷発行

入力：門田裕志

校正：林 幸雄

2002年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

新茶

岡本かの子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>